

I. 内閣府青年国際交流事業の効果測定の方角性（案）

【効果測定に当たっての基本的な考え方】

- 事業の目的（①参加青年の成長、②各国との関係強化及び我が国への理解・関心の向上、③人的ネットワークの構築と社会貢献活動の促進）に即した効果測定を行う。
- 事業の効果が事業終了から長期にわたって発現する国際交流事業の特徴にかんがみ、単年度で行う効果測定と中長期で行う効果測定の両方を実施する。そのうち単年度で行うものについては、事業中～終了直後に実施するものと事業終了から約1年後にフォローアップとして実施するものとに分けて行う。
- 事業中に実施する効果測定については、プログラム内容に即したものとする。例えば、長期の船上研修を行う場合、事業における青年の成長が幾つかの段階を経て進むことを踏まえ、船上研修前と後だけではなく、途中においても実施することが望ましい。また、その段階の移行をよりスムーズに行えるよう支援する観点から、ピア・フィードバック（青年同士が互いの強みや課題を話し合い、成長を確認するプロセス）の導入を検討すべきである。
- 事業全体としての評価に、参加青年の個人としての成長度合いを組み込むことが望ましい。この観点から、事業当初に設定する個人目標をそれぞれ達成できたか否かの総計を一つの指標としてはどうか。
- 事業中に実施するアンケートについては、いわゆる「評価疲れ」が起きないように、評価項目を厳選するなど、短時間の間に青年が記入できるものとするべきである。
- 経年変化を観察することは重要との観点から、従来実施していたアンケートについても項目の絞り込み等を検討しつつ引き続き実施し、事業プログラムの変化が事業効果に与える影響を分析し、プログラムの改善に資することとする。この際、毎年度新たな青年が参加するという事業の性格上、一定の目標値を達成したかどうかに着目することが重要である。
- 可能な限り定量的評価を行うこととするが、事業の目的はいずれも単純に数値化が困難なものであり、事業に関わった研修講師等からのコメント等、定性的評価についても重視する。
- 事業の目的の①参加青年の成長については、次世代グローバルリーダーに必要な能力はどういったものか、またその中でも本事業が特に能力の伸長に効果的と考えられるものはどういったものか、といった観点から測定の対象とする項目を検討すべきである。

【具体的な効果測定方法】

(1) 事業中～終了直後に実施する効果測定

①参加青年の成長

- ・参加青年によるグローバルリーダーに必要とされる諸能力の向上度合いの評価

(例) コミュニケーション力／異文化対応力／チャレンジ精神／問題解決能力
／企画力／マネジメント力 等に関する自己評価

- 事業がその能力の向上に役立つと思うか

- 事業前・途中・後において自分がその能力をどの程度備えているか

- ・異文化感受性発達調査（IDI）

「異文化感受性発達モデル」に基づく「異文化感受性発達調査」（Intercultural Development Inventory）により、参加青年の事業前・事業後の異文化対応力について一定程度客観的な測定を行う。

- ・研修講師等、参加青年の成長を観察できる立場にある者からの評価

事業全体についてのみならず、リーダーシップ、主体性・積極性、チャレンジ精神等、各項目ごとに分けて評価を行い、主観的評価では判断し難い能力の成長を分析することを目指す。

②各国との関係強化及び我が国への理解・関心の向上

- ・参加青年による相互理解や日本への印象に関する評価

(例) (外国青年に対し) プログラムは、自身と日本人々との相互理解の点で役立つと思うか

(外国青年に対し) 日本に対する印象は、このプログラムに参加したことでどのように変わったか

(日本青年に対し) プログラムは、自身と他国人々との相互理解の点で役立つと思うか

- ・在外公館、参加国政府からの事業に対する評価

(例) この事業は、相手国と日本の関係強化という観点からみて、有用なツールだと判断するか

この事業は、招へいされた外国青年の日本に対する理解・関心の向上にとって有意義だと思うか

- ・訪問国での事業の報道振り

(例) テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等の媒体でどの程度報道されたか

- ・訪問国での対応振り

(例) 首脳級、閣僚級等への表敬訪問を実現できたか

③人的ネットワークの構築と社会貢献活動の促進

- ・参加青年による人的ネットワークの広がりの評価
（例）事業を通じて何人程度の外国青年等とのつながりを得たか
- ・参加青年の事業の成果を地域や国に還元していく意欲の有無
（例）事業参加を通じて、社会貢献活動（地域貢献活動／国際貢献活動）に参加したいという意欲を持ったか

（２）事業終了から約１年後に実施するフォローアップ効果測定＜日本青年のみ＞

①参加青年の成長

- ・事業における、グローバルリーダーに必要と考えられる諸能力の向上に必要と考えられる経験の有無
（例）多くの国籍の人々と生活や様々な活動を共にする体験をした
文化や価値観の違いによる相手との意見の衝突を体験した
国籍を問わず多くの周りの人々を巻き込んで活動を進め、目的を達成する経験をした
- ・事業後にリーダーシップを発揮することができたか
（例）仕事や仕事以外の活動において、リーダーシップを発揮した経験があるか。それはどのような場面か。
- ・事業で培った能力等がその後の活動（仕事、学業やボランティア活動）で活用されているか
（例）異文化の人々との仕事や活動の協働において、事業参加経験が役立っているか
仕事や仕事以外の活動をする上で、事業参加経験が役立っているか
仕事の選択等のキャリア形成段階において、事業参加経験が役立っているか
- ・事業をきっかけとして行っている自己啓発の有無
（例）英語のスキルアップに取り組んでいるか（現在の語学力はどの程度か）
リーダーシップ等を向上させる取組を行っているか
日本の社会や文化等について理解を深める取組を行っているか

②各国との関係強化及び我が国への理解・関心の向上

【自己評価】

- ・事業から１年後の時点での外国青年や参加国とのつながりに関する状況

- (例) 事業で交流した外国青年等と引き続き交流しているか
事業で交流した国の言語、社会、文化等について学んでいるか

③人的ネットワークの構築と社会貢献活動の促進

- ・事業から1年後の時点での人的ネットワークの状況

- (例) 事業で交流した外国青年等と引き続き交流しているか (再掲)
事業で交流した日本青年等と引き続き交流しているか

- ・事業から1年後の時点での社会貢献活動の状況

- (例) 事業後、何らかの事後活動を行ったか。どのような活動か。
今後、どのような事後活動を行う予定にしているか。

(3) 中長期(5年に1回を目途)で実施する効果測定

①参加青年の成長

- ・事業の成果を社会に還元することができているか

- (例) 仕事やボランティア活動を通じた社会貢献の状況

- ・事業後にリーダーシップを発揮することができたか

- (例) 仕事や仕事以外の活動において、リーダーシップを発揮した経験があるか。それはどのような場面か。

- ・事業で培った能力等がその後の活動(仕事、学業やボランティア活動)で活用されているか

- (例) 異文化の人々との仕事や活動の協働において、事業参加経験が役立っているか
仕事や仕事以外の活動をする上で、事業参加経験が役立っているか
仕事の選択等のキャリア形成段階において、事業参加経験が役立っているか

②各国との関係強化及び我が国への理解・関心の向上

- ・事業に参加した外国青年等が日本とのつながりを維持しているか

- (例) 事業で交流した日本青年等と引き続き交流しているか
事業参加後、日本とどのような関わりをもつようになったか(来日経験、日本語・日本文化学習の経験等)

- ・事業に参加した日本青年が参加国とのつながりを維持しているか

- (例) 事業で交流した外国青年等と引き続き交流しているか
事業参加後、参加国とどのような関わりをもつようになったか

③人的ネットワークの構築と社会貢献活動の促進

- ・ 過去の事業参加青年の人的ネットワークの状況
 - (例) 事業で交流した外国青年等と引き続き交流しているか
 - 事業で交流した日本青年等と引き続き交流しているか (再掲)

- ・ 事業に参加した外国青年が各国又は国際社会で影響力を持っているか
 - (例) 過去の事業参加青年の職業や非営利団体での地位
 - 事業のネットワークを活かして開催された行事の規模

- ・ 既参加青年による社会貢献活動の状況
 - (例) 各国ごとの事後活動のまとめ

④既参加青年の社会での活躍に関する定性的評価

- ・ 事業で得たネットワークを活用した社会貢献等の活動についてヒアリング等により経緯、事業との関連性について詳細に把握